

大事にしたいこと～音楽の授業を参観して～

副校長 佐橋 正智

2年計画で進んでおります大規模改造工事は、高等部及び寄宿舍棟の外壁がきれいになり、照明はLEDへの交換が順次進み、1年目は終盤を迎えています。工事に際して、多くのご理解とご協力をいただいていることに、あらためて感謝申し上げます。

先日、高等部の音楽で、声を出して歌うことが難しい生徒に、マグネットシートにワンフレーズずつ歌詞を書いたカードを使って、曲調に合わせてボードに自ら貼っていくという展開がありました。

その曲は、出だしの一拍目に『間』があることが歌唱のポイントとなっており、歌詞カードを貼るタイミングが肝心なのですが、実に絶妙なものでした。何回か続けていくうちに、全員を導くコンダクターのような役割も果たしていました。私自身、歌唱の表現方法として『カードを貼る』という生徒の動作で表現する発想はなく、実に新鮮な気持ちで参観することができました。余談ですが、私が小学生の時、昭和40年代の話ですが、体調を崩し音楽の授業を何回か続けて欠席したことがありました。久しぶりに授業を受けたある日、先生から「前に出て一人ずつ歌って発表しましょう」との指示があり、あろうことか2番目くらいに指名されてしまいました。全然覚えてもいない歌でしたので、もじもじしていると、先生は「できるところまででいいのよ。失敗しても大丈夫だから。」と優しく励ましてくれたのですが、こちらはそのような気持ちには全然なれなかったのを、今でもはっきりと覚えています。学校の音楽はあまり好きではなかったのですが、振り返るとこの授業が境となったような気がします。それまでは無邪気に大きな声で歌えていたのですが……。それでも、大人になってカラオケをしたり音楽を聴いたりすることは嫌いにはなりません。おそらく、担任の先生は『音楽の授業が嫌いでも、音楽が嫌い』にならないよう導いてくれたのだと思います。

新しい学習指導要領では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3点が育成すべき資質・能力と整理されました。先述の音楽の授業では、「曲調を理解しリズム感を受け止めることができること」「カードという手段でリズム感を表現すること」「全員のコンダクターとなり『歌唱の表現』に対し更に意欲を高めること」がなされており、今後の授業づくりに向けて一つのヒントとなる取組みだと思えます。私の体験のように、『授業嫌い』を作らないよう、できることやよさを生かし、子どもたちの意欲を育て、心身の成長を育むことができる授業づくりを、これからも大事にしたいと思えます。